

**南木曾町田立地区**

「お茶の栽培と紙漉き」

「南木曾支署」長野県南西部に位置する南木曾町田立地区は、田立の滝、天然公園への登り口になっています。

この地は温暖な地域がら古くから丘陵地を利用し、木曾谷で唯一お茶が栽培されており、春の茶摘みの時期は一段と賑



南木曾小学校お茶摘み体験



田立和紙の技法

やかにあります。「田立のお茶」は平成十八年より四回連続で長野県知事賞に選ばれたほどの銘茶です。

また、田立和紙は江戸時代中期には紙漉きが行われていた記録が残っており、最も盛んであった大正時代には百戸近い家が生産に従事し、かつては、冬の風物詩となっていた和紙づくりは現在、地元の方が中心となって昔ながらの工法で紙漉きの技術の保存活動を行っており、南木曾小学校では児童が自分の手で漉いた田立和紙を卒業証書にしています。

「田立の滝」

田立国有林にはうるう滝、らせん滝、洗心(せんしん)滝、霧ヶ滝、天河(てんが)滝、不動滝、そうめん滝等、大滝川の峡谷にかかる無数の瀑布を総称して「田立(ただち)の滝」といい、昭和四十九年に長野県の名勝に、平成二年には「日本の滝一〇〇選」に指定され、壮大な滝の流れは周りの緑ともかね合い、

神秘的で感動的で、特に主瀑である天河滝は高さ四十メートルから流れ落ちる様はまさに圧巻です。

かつては里人たちがこの天河滝を神聖化し、雨乞い神事を奉るとき以外は登らなかつたといわれていましたが、昭和二年に「日本新百景」に選出されて以降、多くの方が登山できるようになり、現在でも多くの登山者が訪れています。

「花馬祭り」

花馬祭りは、毎年、十月の第一日曜日(今年は十月七日)に豊作・家内安全等の諸願成就を感謝して五宮神社で行われます。この祭りは、三百年ほど前から行われ、鞍に花(竹ひごに沢山の色紙を付けたもの)を飾った三頭の木曾馬が笛太鼓の先導で田立駅前より五宮神社へゆつくりと練り歩き、神社では、この行列が境内を三周した後、待ち構えていた人々



田立の滝主瀑「天河滝」



花馬祭りの様子

が馬に殺到し花を取り合い、取った花は、虫除けとして田の畦や厄除けとして家の入口に挿します。平成五年には長野県の無形民俗文化財に指定され、一九九八年の長野冬季オリンピックには、この田立の花馬が閉会式の芸術プログラムに出場しています。

◆所在地 (田立の滝)

長野県木曾郡南木曾町 (田立国有林)

◆アクセス

- 「公共交通機関」
- 【田立の滝】 JR中央線坂下駅および南木曾駅下車タクシー約三〇分
- 【五宮神社】 JR中央線田立駅下車徒歩約一〇分
- 【自家用車】
- 【田立の滝】 中央道中津川I・Cから車で約四〇分
- 【五宮神社】 中央道中津川I・Cから車で約三〇分